編集後記

博物館では、「ひとはくセミナー」、毎年県下10地域で実施している「ひとはくキャラバン」、皆さんとともに兵庫県下の自然環境の現状を探る「リサーチプロジェクト」また子どもたちの科学離れ理科離れをおしとどめて理科好きに変える「理科大好きスクール」・「教材開発グループ」・「夏季教職員セミナー」などを通してさまざまな分野にわたる講義・実習・セミナーを行っています。また16年度よりスタートした「地域研究員ステップアップセミナー」とそれに続く「特設セミナー」では、地域の人々自らが興味をもったテーマをひとはく研究員とともに解決する仕組み作りを進めています。

これらさまざまな分野にわたる講義・実習・セミナーなど自然環境学習プログラムの目的は、地域の自然・環境・文化に根ざした「生涯学習」のテーマの発掘とその取り組み方をみなさんとともに具体的に探ること、また先生方を通して生涯学習の楽しさや重要性を子どもたちに伝えてゆくことです。

また博物館は、NPO 法人・人と自然の会など、県下の自然環境の調査・研究を基礎としてその保全に向け活動する、またそれらの実現のために人と人との繋がりの修復に向け活動する10の連携活動グループとともに「人と自然・人と人の共生」に向けてさまざまな活動を展開しています。

ここで博物館を主に活動の場とするグループ、また県下に散在しながらもひとはくと協働して活動するグループの顔をグループの間でお互いに知っておくことが、それぞれの活動を継続するためにも、活動の質を高めるためにも、また新たな切り口での展開にあたっても必要と考え、地域研究員および連携活動グループの発表・交流会「共生のひろば」を 2006 年 2 月11日に人と自然の博物館で開催しました。雑誌「共生のひろば」はその報告集です。

発表内容は、専門化・細分化した現在のいわゆる「学会」では想像できないほどバラエティーに富んだ活動分野・対象・方法の発表内容で、あえて表現すれば「共生博物学」と呼ぶべきものでした。

連携活動グループまたひとはく地域研究員の発表内容は実にさまざまで、一見お互いに無関係に見えるかもしれません。しかし、21世紀の環境優先社会の実現とは、これまでグローバル経済優先社会が崩壊させてきた私たちの生活環境を再創造することがポイントであり、生活環境の再創造とは「人と自然との繋がり」「人と人との繋がり」「お金の流れの仕組み」を新たに紡ぎなおすことであるという鳥瞰的な視点からはお互いの共通項を見出せたのではないでしょうか。発表会の興奮を反芻し、新たな展開に繋がることを願っています。

編集責任　シンクタンク事業室　田中哲夫